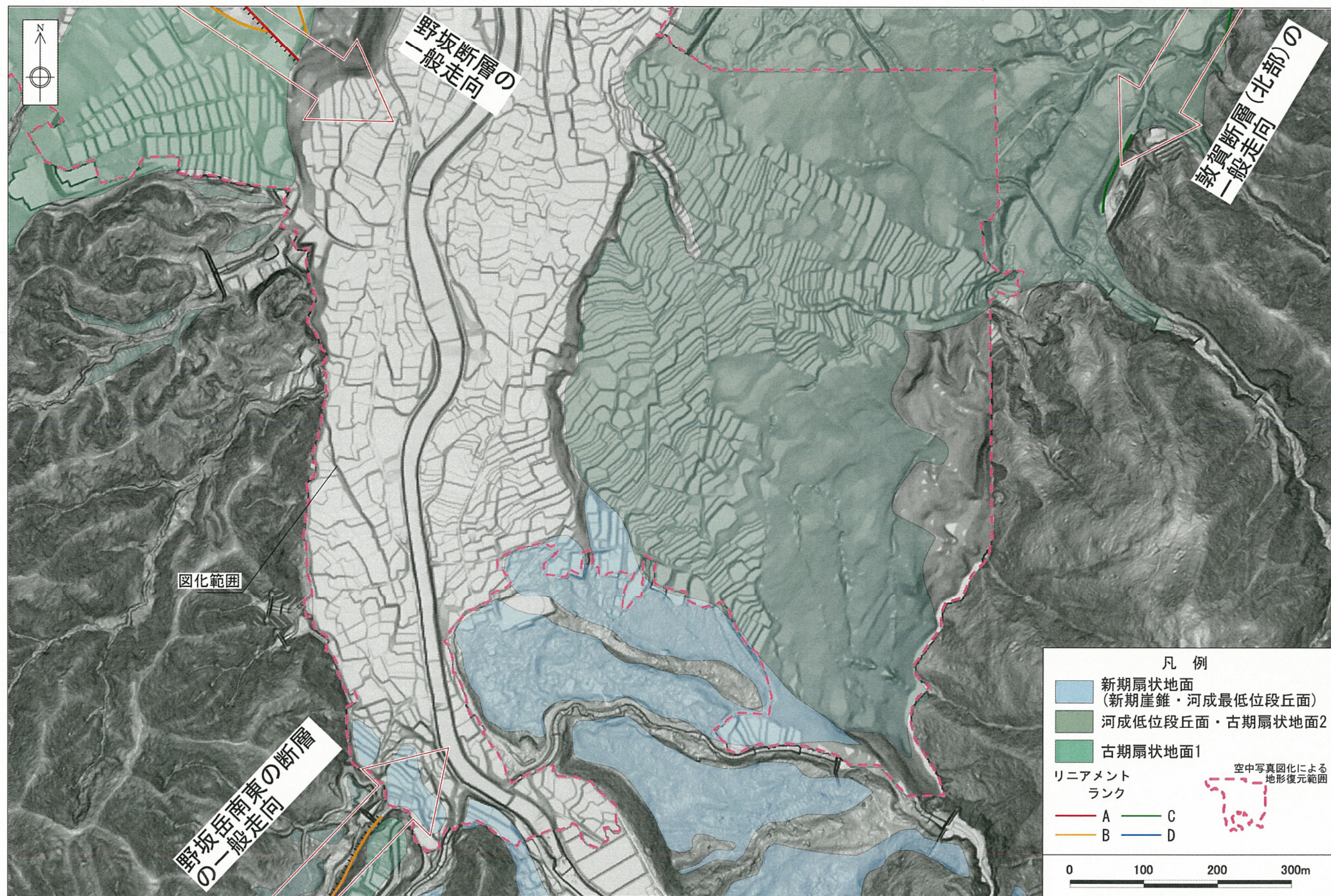
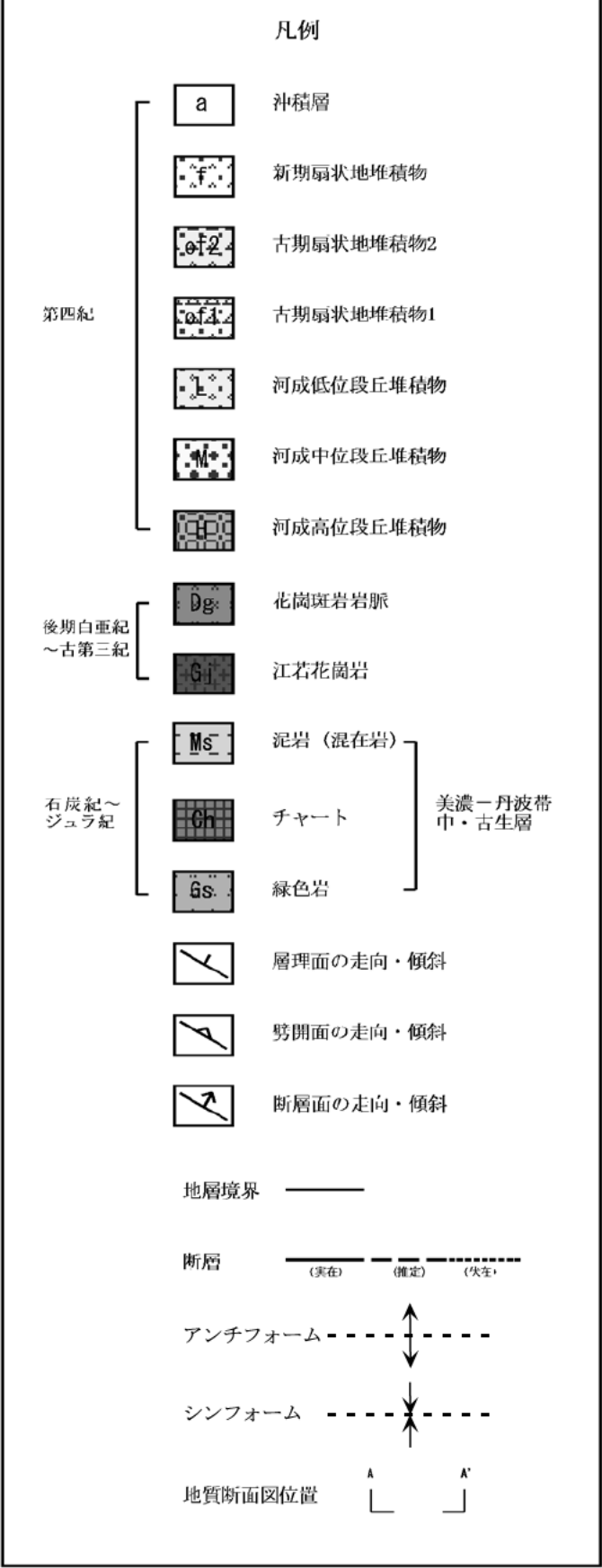
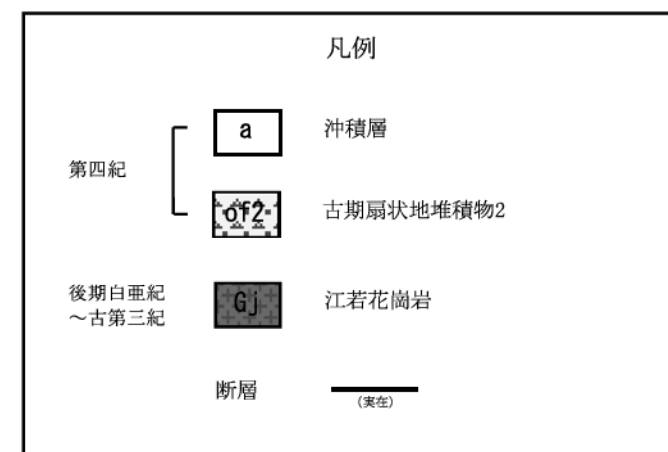
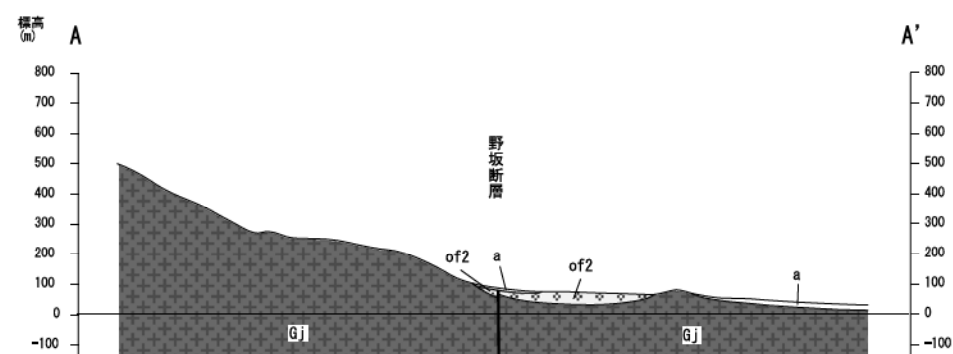




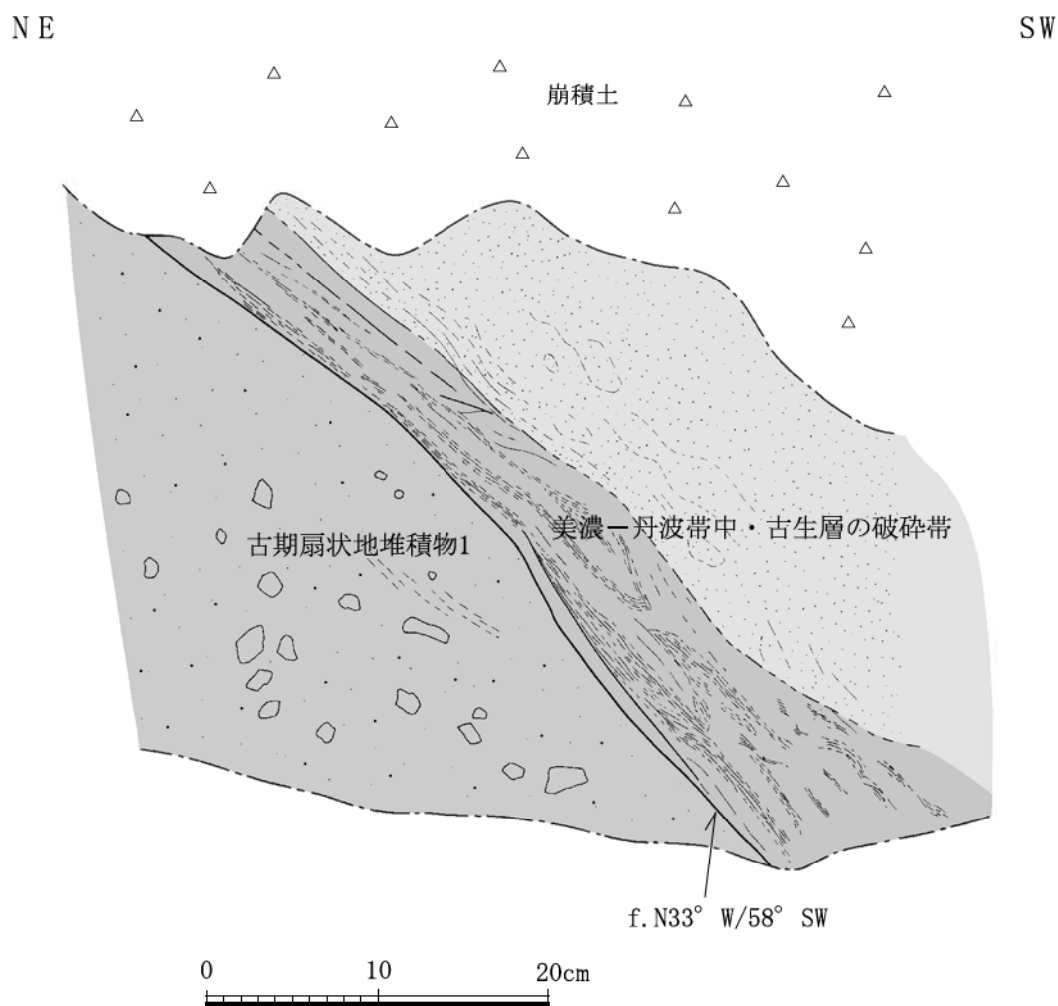
第1.3.155図(2) 野坂断層南端付近 航空レーザー測量により作成した地形図(2)



第1. 3. 156図 野坂断層周辺陸域の地質図



第1. 3. 157図 野坂断層周辺陸域の地質断面図



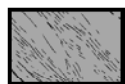
凡例



古期扇状地堆積物1 (角礫混じり粘土質砂)



美濃-丹波帯中・古生層 (小角礫状～砂状破碎部)

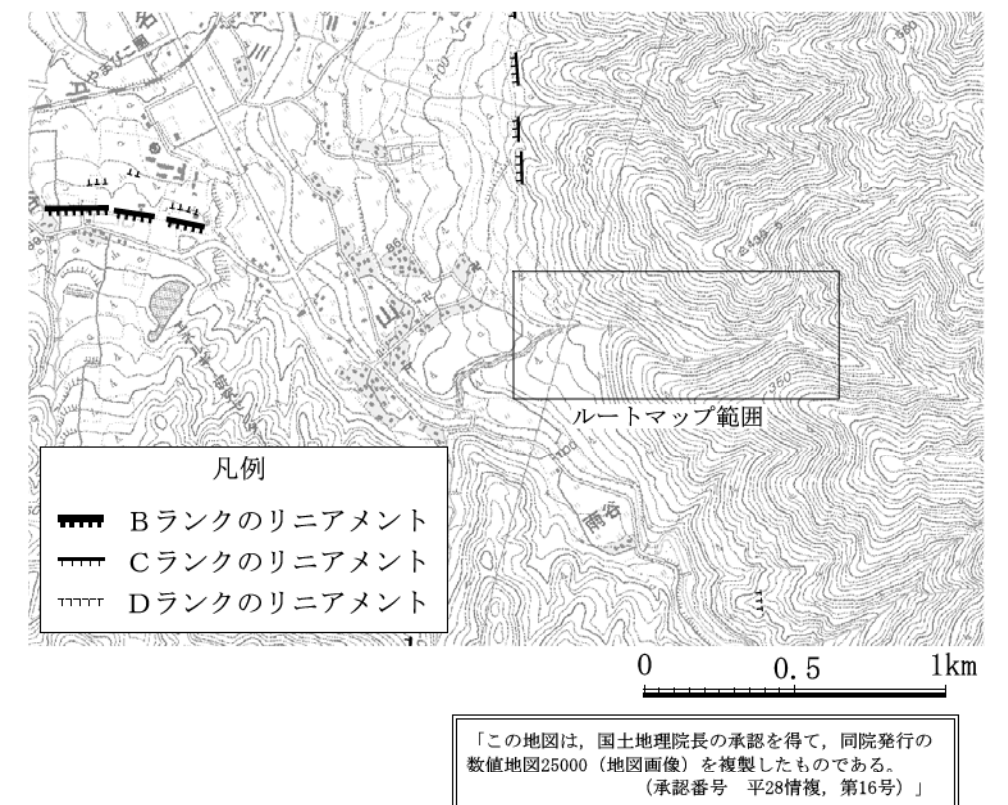
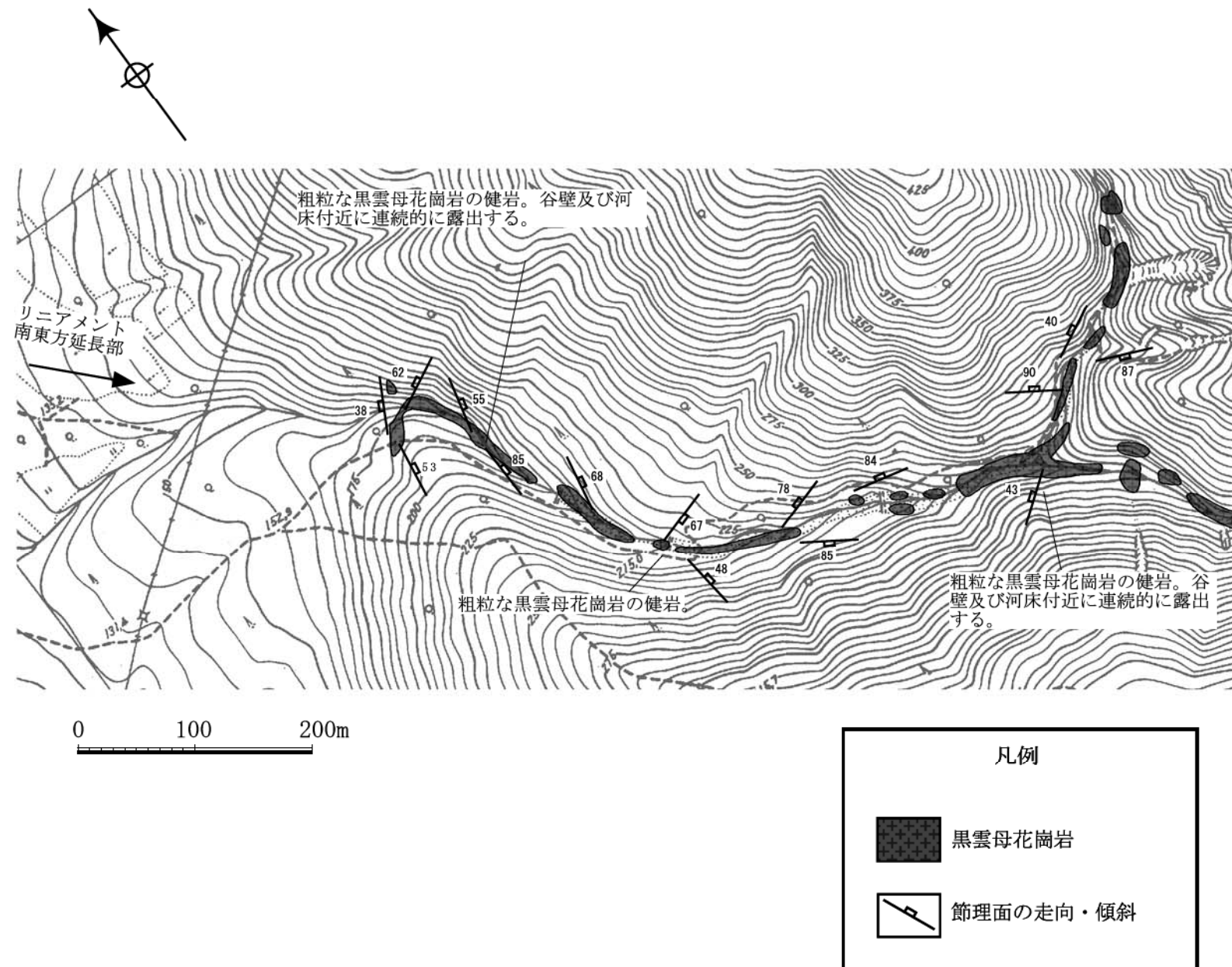


美濃-丹波帯中・古生層 (粘土状破碎部)

f. N33° W/58° SW : 断層面の走向/傾斜 (偏角未補正)

リニアメント付近において、古期扇状地堆積物1と美濃-丹波帯中・古生層の破碎帯が見かけ逆断層で接している。断層面の走向はリニアメント方向と調和的である。粘土状破碎部は幅4cm～10cmである。

第1.3.158図 野坂断層 野坂西方の露頭スケッチ (Loc. N-4)

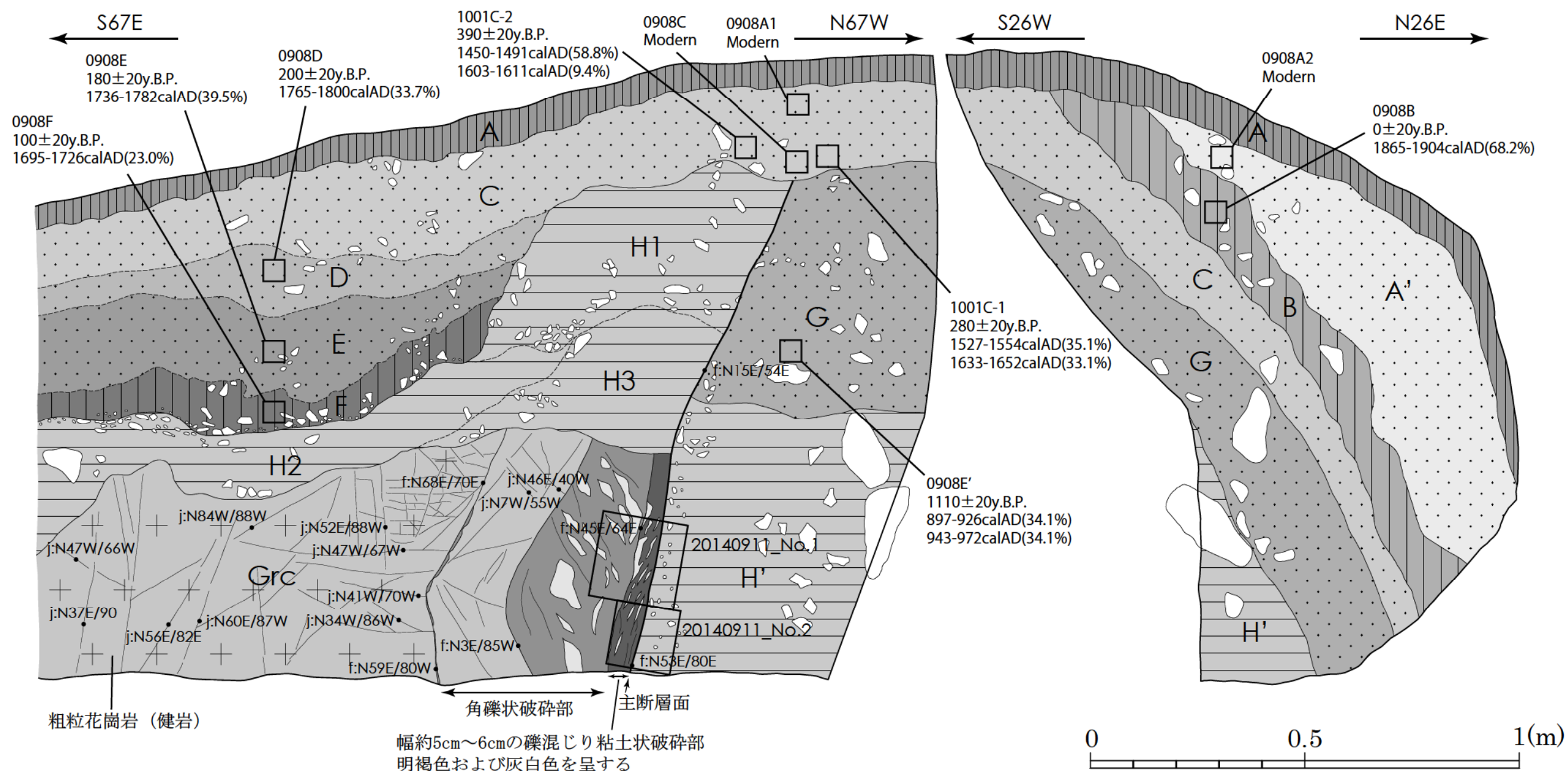


第1. 3. 159図 野坂断層南端付近 山付近のルートマップ (Loc. N-5)



花崗岩と堆積層の境界に断層が認められる。花崗岩には幅約50cmの破砕帯が分布し、主断層面付近に幅約5cmの礫混じり粘土状破砕部を伴う。

第 1.3.160 図 野坂断層 山南西方付近の露頭写真 (Loc. N-6)

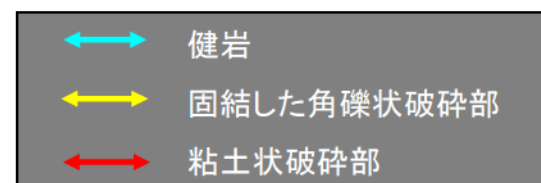
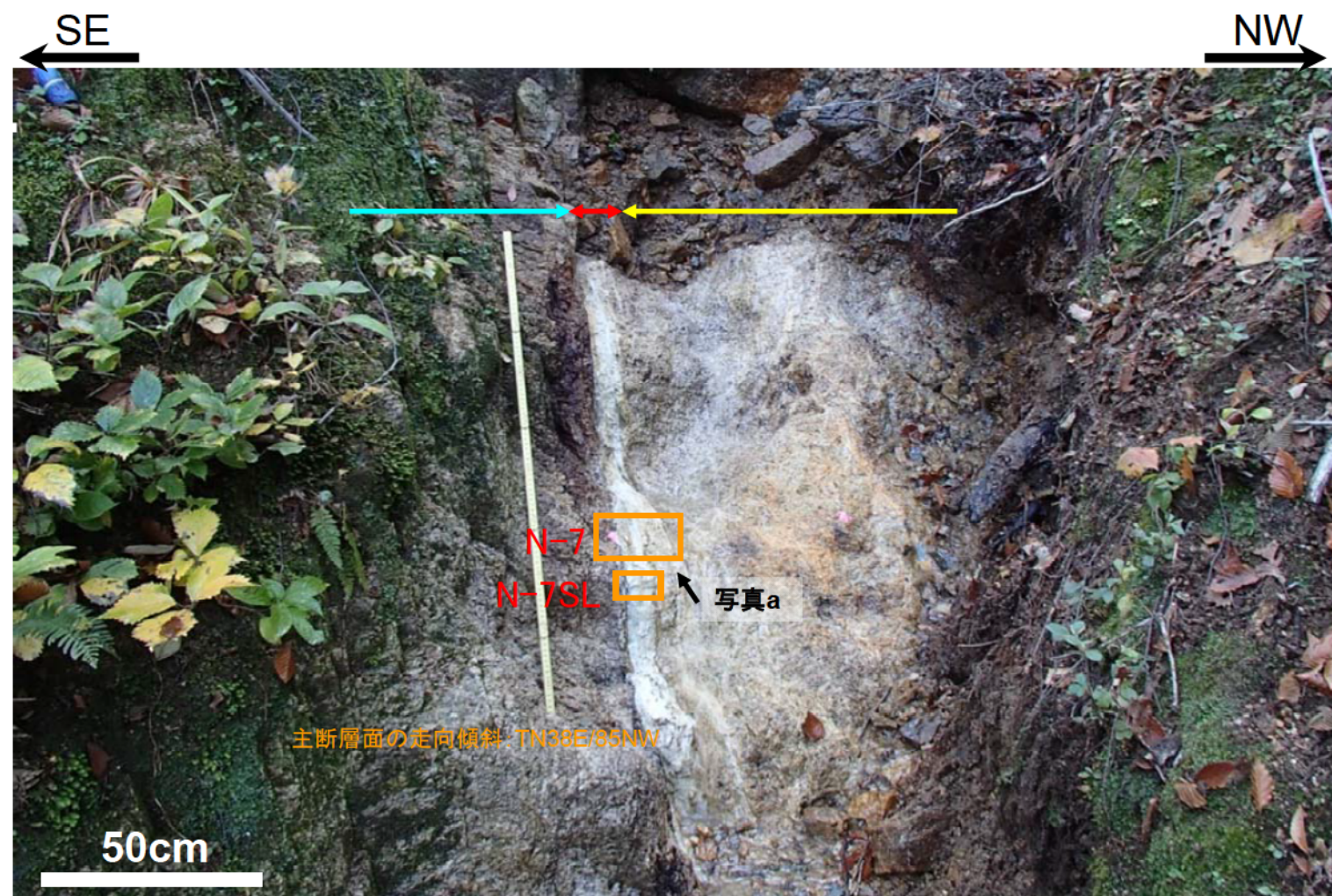


凡 例

	A 表土 (有機質シルト)		H1 谷底堆積物 (シルト質礫)		破碎部中のフラグメント
	A' 斜面堆積物 (礫質シルト)		H2 谷底堆積物 (シルト質礫)		堆積層中の礫
	B 斜面堆積物 (有機物混じり礫質砂)		H3 谷底堆積物 (シルト質礫)	f:N37E/87SE	断層面の走向・傾斜 (偏角補正済み)
	C 斜面堆積物 (シルト質礫)		H' 谷底堆積物 (シルト質礫)	j:N47W/90	節理面の走向・傾斜 (偏角補正済み)
	D 斜面堆積物 (礫混じり砂質シルト)		Grc 粗粒花崗岩		ブロックサンプリング位置
	E 斜面堆積物 (礫混じり砂質シルト)		礫混じり粘土状破碎部		炭素年代測定試料採取位置
	F 斜面堆積物 (有機物混じり砂・シルト質礫)		角礫状破碎部 (粘土含有)	0908B 0±20y.B.P. 1865-1904calAD(68.2%)	試料番号 14C年代 (δ ¹³ C補正值) 暦年代 (確率)
	G 斜面堆積物 (砂・シルト質礫)		角礫状破碎部		

野坂岳南東断層の断層崖延長の北東向き斜面に断層露頭を確認した。断層露頭には、花崗岩とそれを覆う斜面堆積物が分布する。花崗岩と堆積層の境界には断層が認められ、花崗岩側には幅約50cmの破碎帯が分布する。破碎帯は主に角礫状破碎部からなり、主断層面付近に幅約5cmの礫混じり粘土状破碎部を伴う。斜面堆積物は上位からA~H層に区分され、斜面傾斜に調和的に60°程度北東に傾斜して分布する。斜面堆積物中では、H1層およびH3層とG層およびH'層に断層構造が確認された。断層がG層に変位を与え、C層に覆われることから、最新活動時期はG層 (1,110±20y. B. P.) 堆積後、C~F層 (100~390y. B. P.) 堆積以前である。

第1.3.161図 野坂断層 山南西方付近の露頭スケッチ (Loc. N-6)

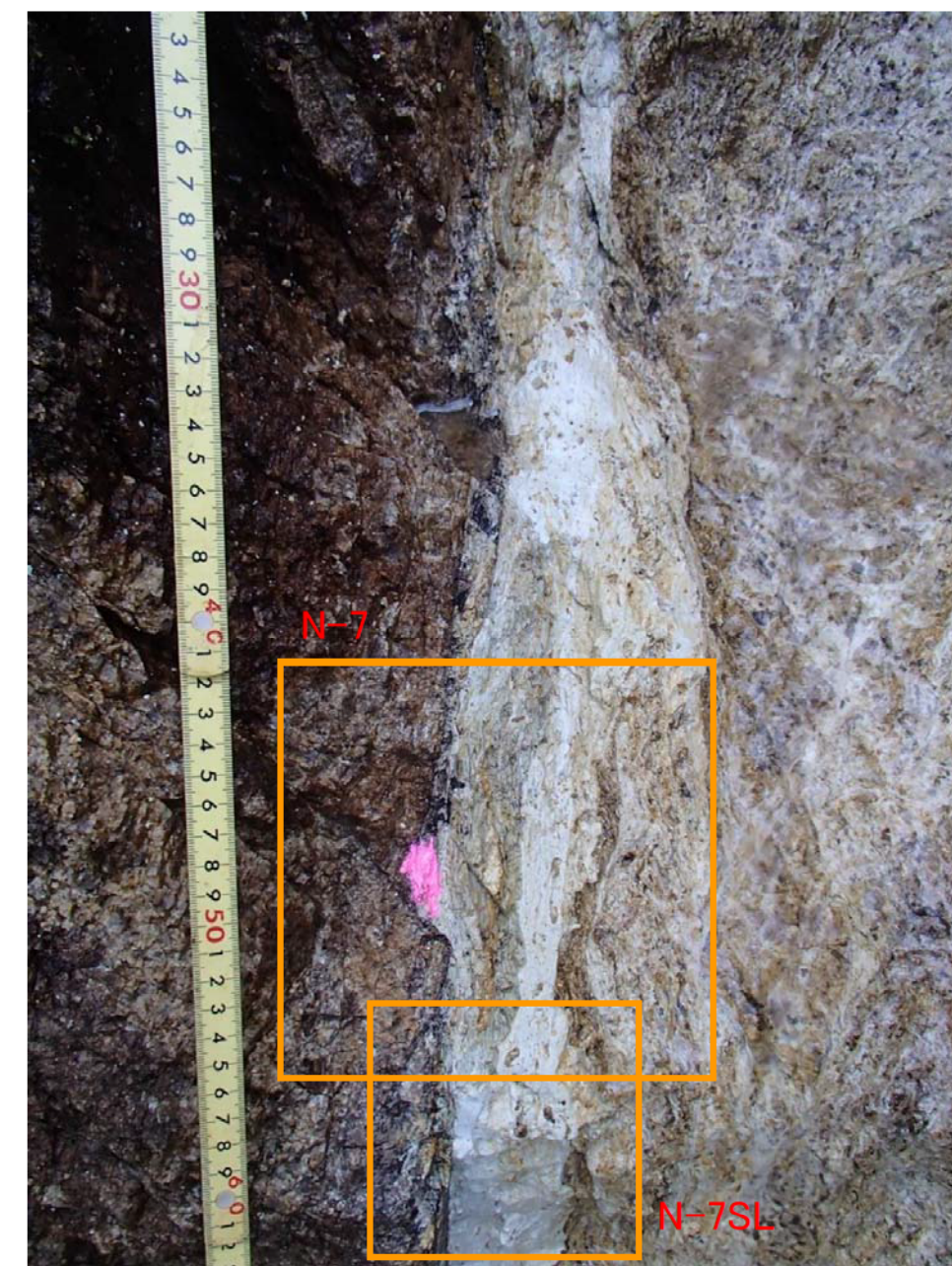


礫混じり粘土状破砕部（約5cm）を含む破砕幅約80cm以上の断層

- ・ 固結した角礫状破砕部：プロトカタクレーサイト
- ・ 粘土状破砕部：複合面構造は認められない

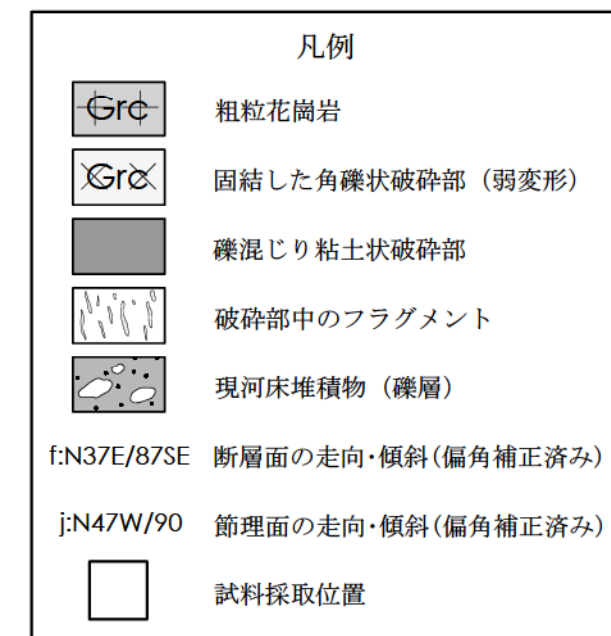
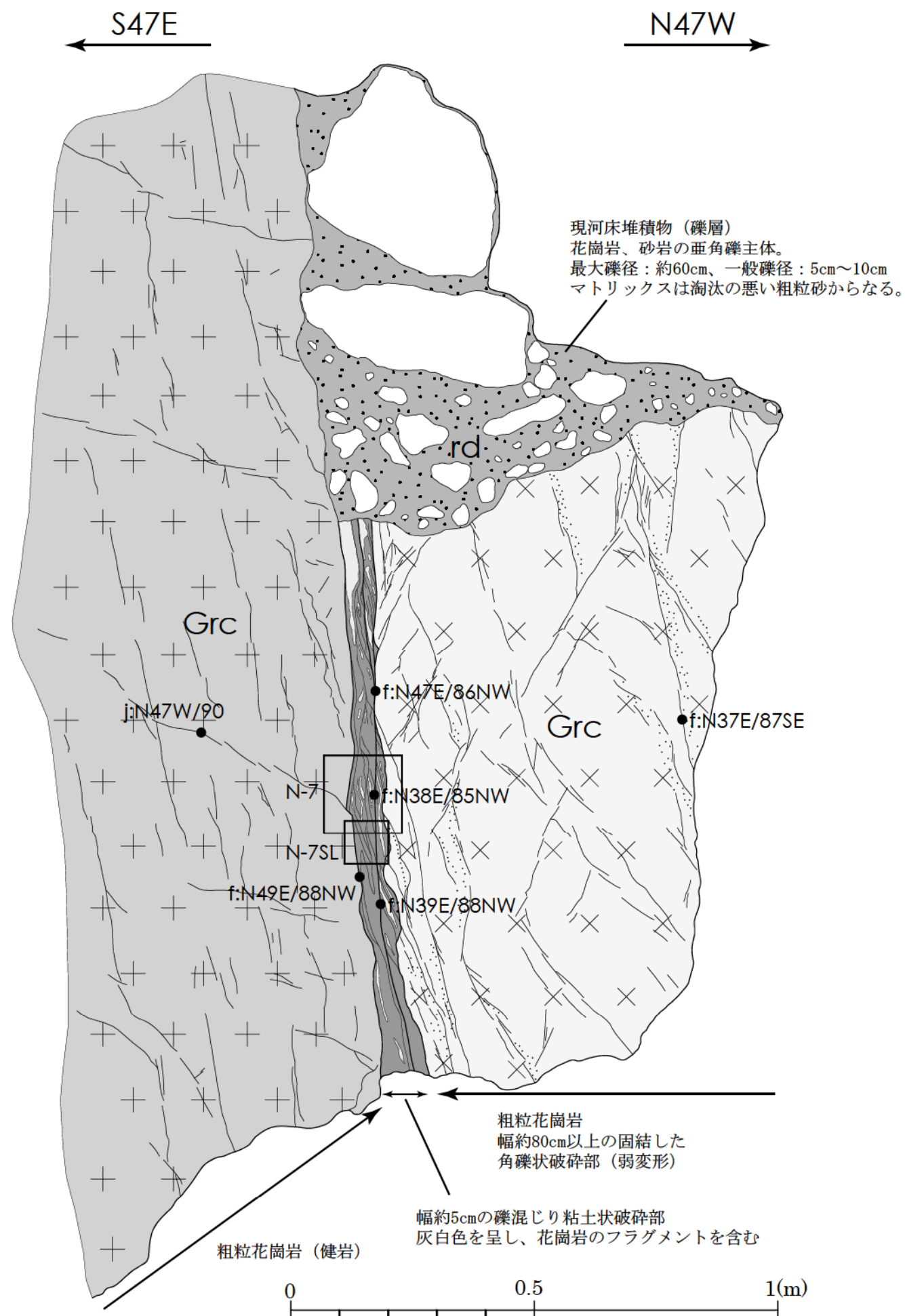


ブロックサンプリング位置



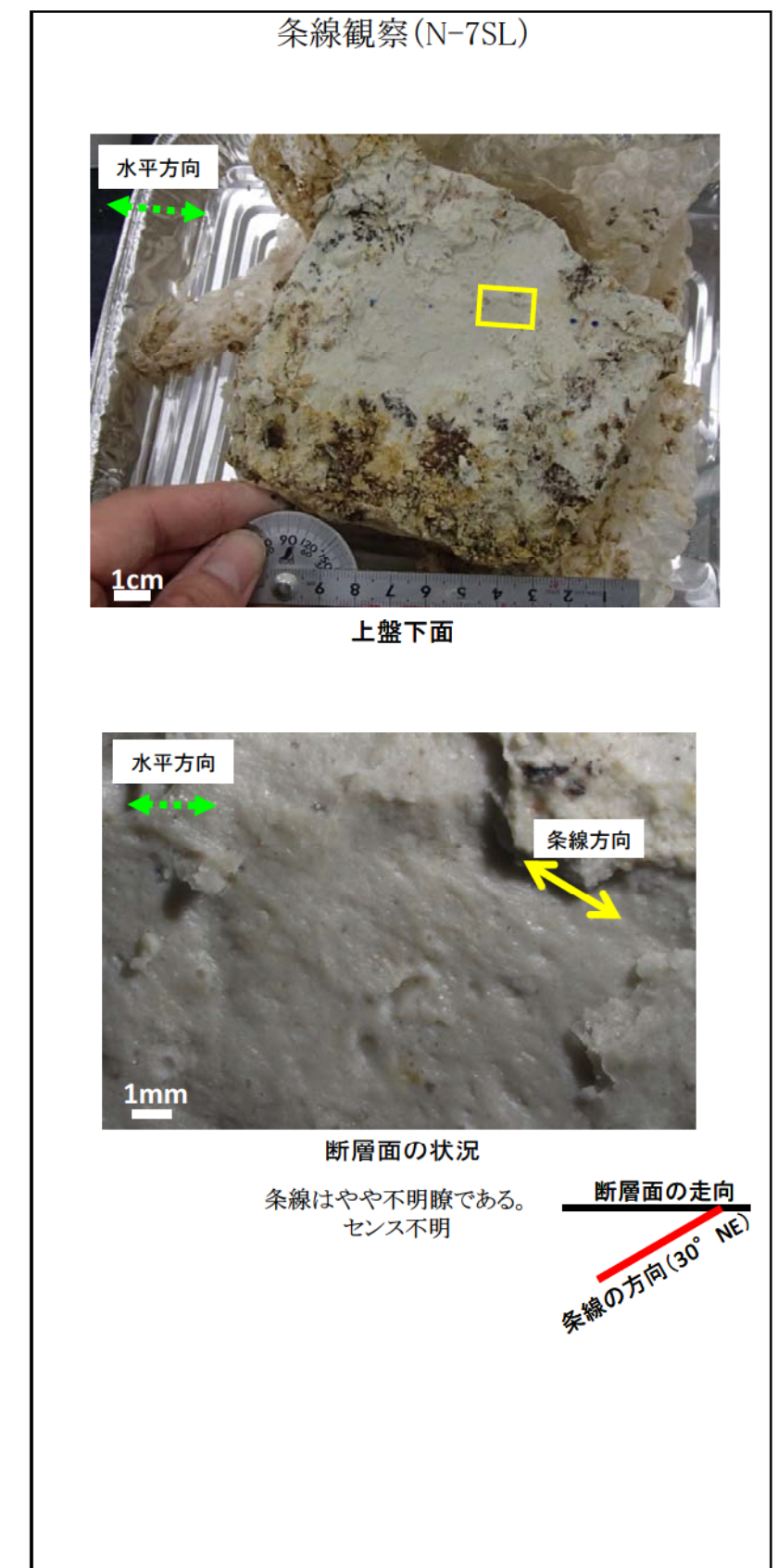
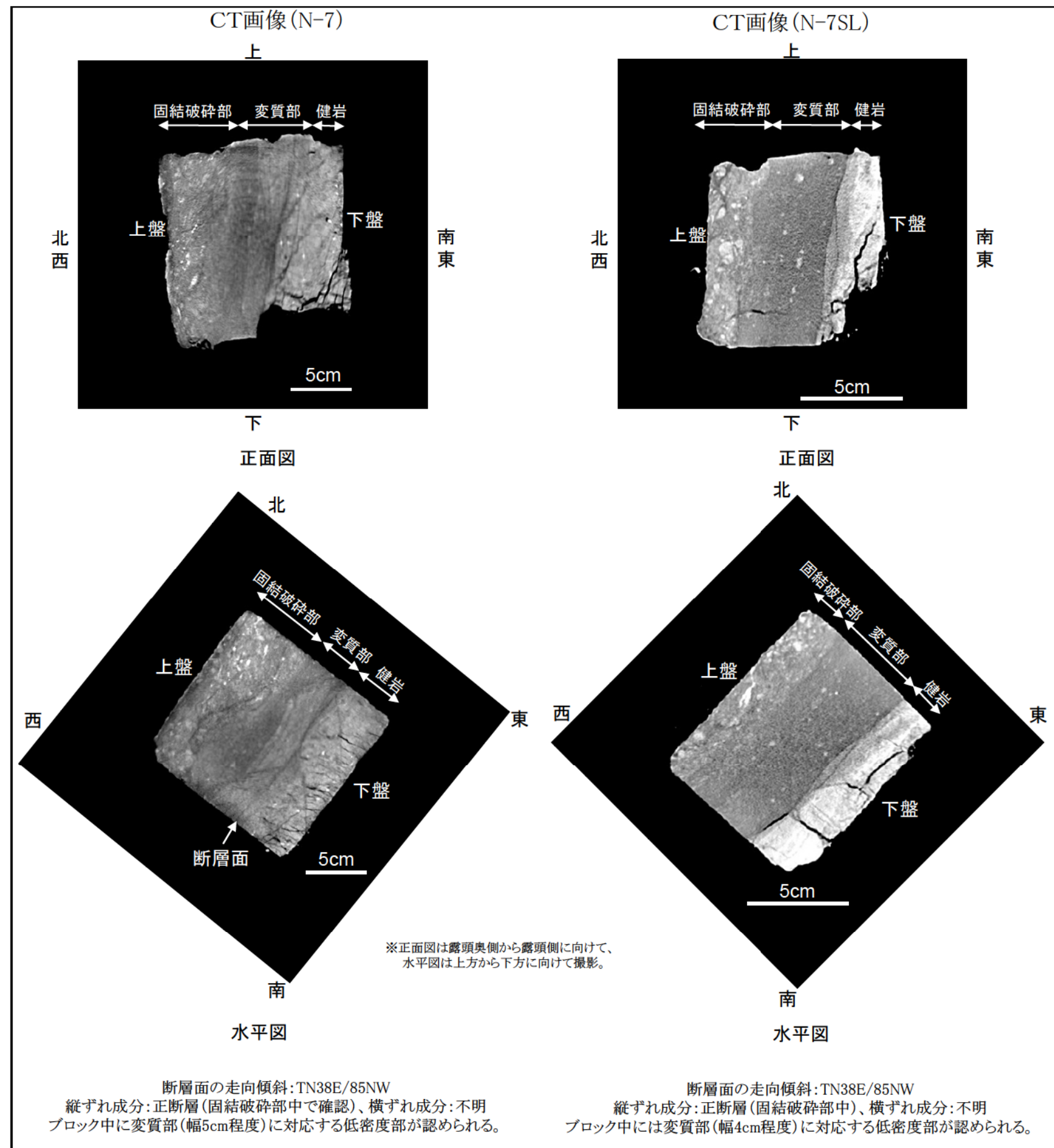
写真a 変質部には複合面構造は認められない。

第 1. 3. 162 図 野坂断層 野坂岳南東方リニアメントの露頭写真 (Loc. N-7)

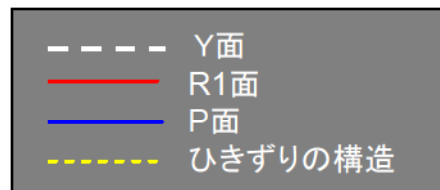
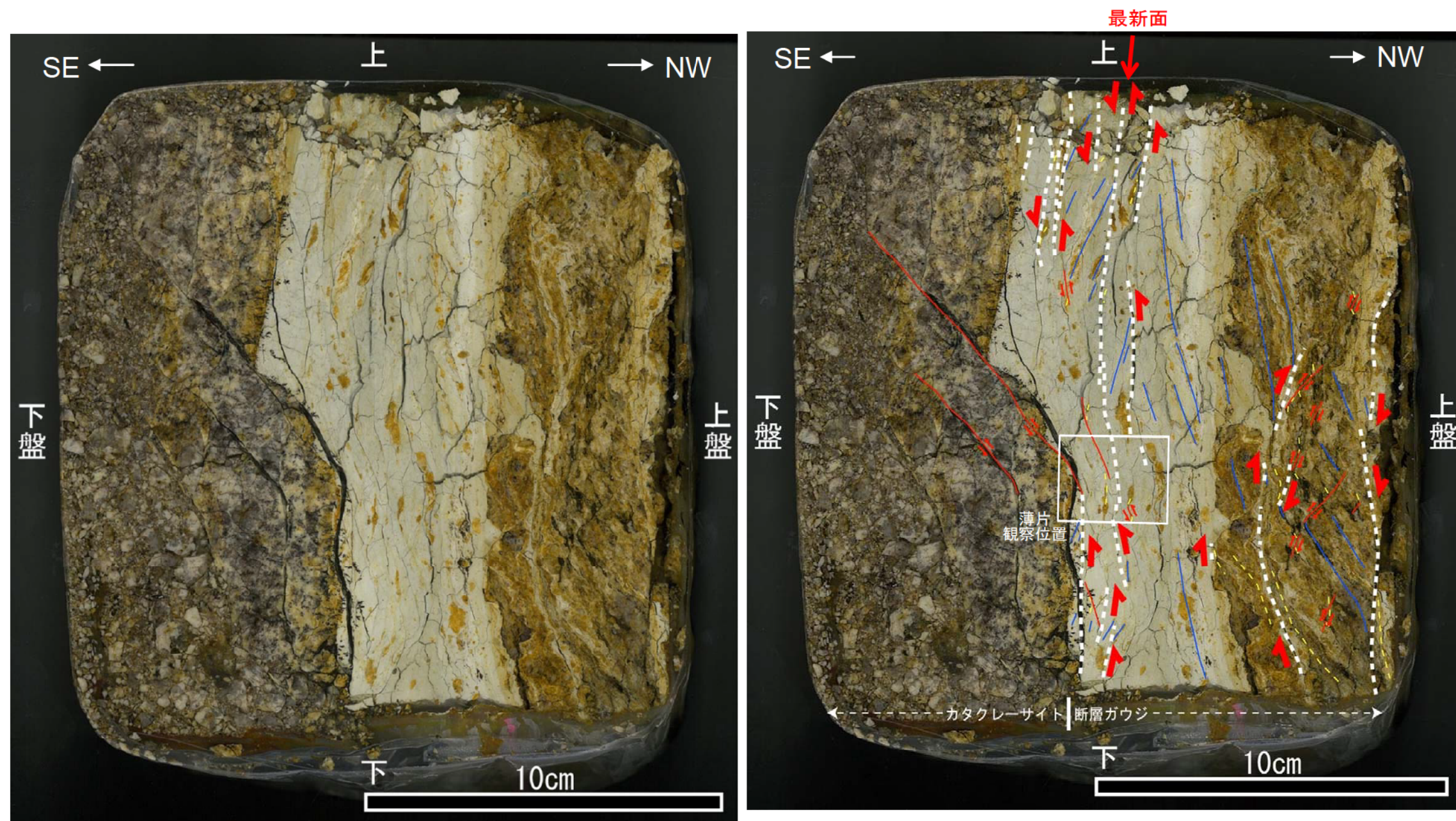


野坂岳南東断層南西部の谷底にリニアメント方向と調和的な走向の破碎帯露頭が認められる。破碎帯は幅約5cmの灰白色を呈する礫混じり粘土状破碎部からなり、北西側に幅約80cm以上の固結した角礫状破碎部（弱変形）を伴う。破碎帯を覆う現河床堆積物に変位・変形は認められない。

第1. 3. 163図 野坂断層 野坂岳南東方リニアメントの露頭スケッチ (Loc. N-7)



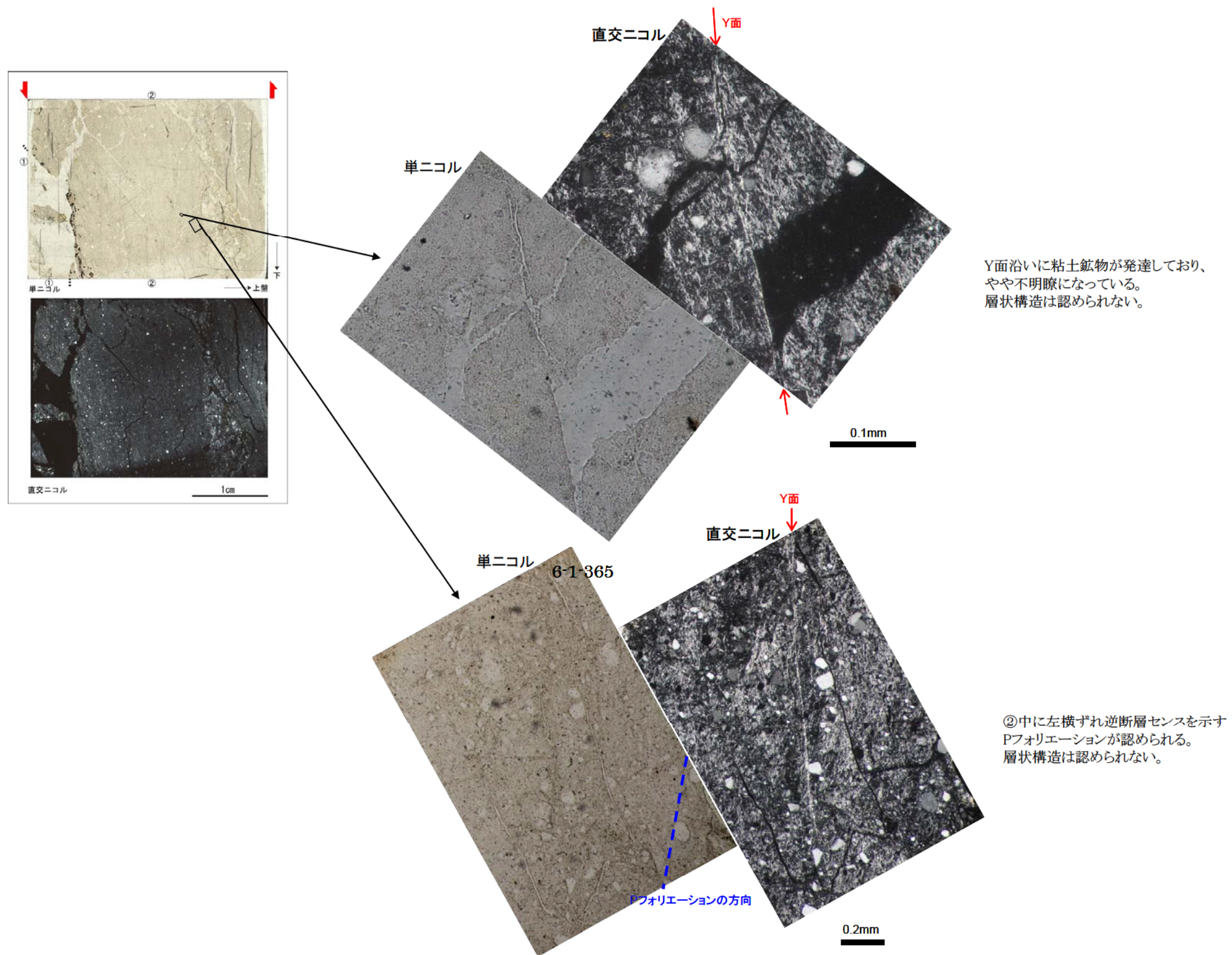
第 1. 3. 164 図 野坂断層 野坂岳南東方リニアメントの破砕部 ブロック試料のCT画像観察結果及び条線観察結果 (Loc. N-7)



研磨片観察結果

- ・分帯: 研磨片中にはカタクレーサイトと断層ガウジが認められる。
- 断層ガウジのうち、研磨片右側(幅5cm程度)はカタクレーサイト起源のフラグメントが多数認められ、研磨片中央部(幅5cm程度)では研磨片右側に比べフラグメントが少なく細粒化している。
- ・Y面は研磨片中央部の断層ガウジ中で多数確認されるとともに、研磨片右側のフラグメント中などで数条認められる。認められるY面のうち、研磨片中央部のY面はミ型の雁行配列をしながら研磨片を横断し、その他のY面はいずれも研磨片を横断せず、直線性に欠ける。
- ・以上のフラグメントの細粒化とY面の連続性・直線性から、研磨片中央部のY面を最新面に認定した。
- ・研磨片中央部の断層ガウジ中には左横ずれ逆断層センスを示す変形指標が多数認められ、研磨片右側の断層ガウジとカタクレーサイト中では右横ずれ成分を示す変形指標が認められる。さらに、研磨片中央部に分布するY面から延びるR1面により、カタクレーサイトが左横ずれ逆断層変位している。これらのことから、運動センスが右横ずれから左横ずれ逆断層に反転した可能性がある。

第 1. 3. 165 図 野坂断層 野坂岳南東方リニアメントの破碎部 ブロック試料の研磨片観察結果 (Loc. N-7)



薄片観察結果

- ・分帯: ①カタクレーサイト、②断層ガウジ
- ・分帯はテクスチャーに基づく。
- ・Y面は数条認められるが、薄片を横断するY面は認められない。全てのY面沿いに粘土鉱物が発達しており、やや不明瞭になっている。断層ガウジ中には全体として左横ずれ逆断層センスを示す変形指標が認められる。①と②の境界付近に不透明鉱物が発達する。
- ・①: 薄片作成時の欠如部が多い。フラグメントは主に石英からなり、マトリックスは細粒碎屑物とセリサイトからなる。破碎流動と波動消光が認められる。
- ・②: フラグメントは石英や黒雲母、セリサイトからなり、カタクレーサイト起源のフラグメントが認められる。マトリックスは細粒の粘土鉱物からなる。

第 1. 3. 166 図 野坂断層 野坂岳南東方リニアメントの破碎部 ブロック試料の薄片観察結果 (Loc. N-7)